

学部留学生在がコメントシートを作成する際の 日本語の語彙・文法上の困難点

濱田 美和

International Undergraduate Student Difficulties with Japanese Vocabulary and Grammar in Written Lecture Reflections

HAMADA Miwa

要 旨

日本の大学の授業では、講義に対する意見、感想、質問等を書くコメントシートがよく用いられるが、一定の日本語力を有する留学生でもコメントシートを書くときに様々な日本語の誤りが見られる。留学生がコメントシートを書く際に日本語の語彙・文法上のような困難点があるかを把握するため、中上級レベルの日本語力を有する留学生が書いたコメントシート262件から抽出した、語彙・文法にかかわる誤用832例をもとに分析を行った。その結果、語句の選択にかかわる誤用が最も多く、そのほかには話し言葉の使用、助詞、テンス・アスペクト、複文、文法形式、活用、語句の使用、やりもらいにかかわる誤用が多く見られた。複数の留学生に共通して見られる誤用も多くあった。これらに焦点を当てて今後さらにデータ数を増やして詳しく分析を行い、その結果をもとに留学生が効率的に日本語でのコメントシートの書き方を学べるような指導方法および教材の開発に取り組みたい。

【キーワード】 留学生、コメントシート、語彙、文法、誤用

1 はじめに

大学の授業では、毎回の講義の後にコメントシート（レスポンスシート、リアクションペーパー、講義カードなどとも呼ばれる）を学生に書かせることがよく行われる。コメントシートは講義に対する意見・感想、質問などを書くもので、主に学生の出席確認として用いられるが、授業によってはコメントシートの記載内容をもとに授業への参加度を評価し、成績評価の一部に取り入れられることもある。コメントシートのサイズは様々であるが、学生の名前、所属や学籍番号を書く欄の下に、数行程度のコメントが書ける空欄が設けられていることが多い。

筆者はこれまで学部留学生を対象とした教養教育「日本事情」の授業で留学生の書くコメントシートを度々目にしてきた。上で述べたように、コメントシートに書くコメントは数行程度、内容も意見・感想などで、日本語能力試験 N2, N1 レベルの日本語力を有する留学生にとってさほど難しいものではないと思われる。しかし、実際に留学生の書いたコメントシートを見ると、わずか数行の文章の中にも日本語の問題が多々見られること、そして、特に語彙・文法に関して複数のコメントシートに共通して見られる誤りが多いことに気づいた。

近年大学では学部入学直後の段階で、大学での学習・研究を円滑に進めていけるよう、初年次教育としてノートテイキング、情報収集、レポートの書き方、プレゼンテーションスキルなどの指導が行われることが多く、そのための教材も多く開発されている¹⁾。しかし、コメントシートの書き方を扱った教材はあまりなく²⁾、コメントシートを書く際に必要となる日本語の表現等に焦点を当てた先行研究も管見の限り見当たらない。コメントシートを適切に書く力は大学の授業においてだけでなく、学内外の様々な行事への参加時、また、日常生活における商品等の購入やサービス利用時などに求められるアンケート回答の際などにも応用できるものであり、留学生へのコメントシートの日本語での書き方の指導は有用だと思われる。

そこで、留学生の書いたコメントシートの分析を通じて、彼らがコメントシートを書くときにどのよ

うな日本語の困難点があるのかを明らかにし、それらの困難点を克服できるような効率的な指導方法および教材の開発を行いたいと考えるに至った。そのための第一歩として、本稿ではコメントシートにどのような語彙・文法上の誤用が見られるのか全体的傾向を明らかにし、今後の調査研究の方向性を検討する上での手がかりとしたい。

2 調査の概要

富山大学で学部留学生向けに開講されている教養教育「日本事情Ⅰ」の授業におけるコメントシートを分析の対象とした。「日本事情Ⅰ」は主に日本や富山の文化、歴史、芸術にかかわる講義をオムニバス形式で行っている。15週（1回90分授業）のうち10週を各分野の専門家10名が1週ずつ講義を行う。専門家10名のうち6名は学内の大学教員、4名は学外の講師である。学内の教員による授業は日本の近代史、浮世絵、アニメ・漫画史、サブカルチャー、富山の歴史と名所、富山の祭りと地域経済にかかわるもので、講義形式で行われる。学外講師による授業は華道、書道、日本の民謡、落語で、留学生は講義を聞くとともに、華道家や書道家の指導の下、学生自身で生け花や書道の作品を作成したり、民謡で使用する楽器を演奏したり富山の民謡を歌ったり、プロの落語家による生の落語を聞くなど実技・実演を含む内容となっている。毎回の講義終了時に留学生はコメントシートを提出することになっている。コメントシートの配布・回収はコーディネーターである筆者が行っている³⁾。コメントシートは、講義の内容をメモする部分と、意見・感想を書く部分に分かれていて⁴⁾、意見・感想に書かれた内容をコーディネーターがまとめ、その週の講義担当者へ送付している。「日本事情Ⅰ」の第1週目のオリエンテーションで、コメントシートの意見・感想に書かれた内容については講義担当者も読むこと、そして、コメントシートも成績評価の対象となることを留学生に説明している。

本稿では2016年度後学期開講の「日本事情Ⅰ」を受講した留学生27名⁵⁾による262件のコメントシートを対象にして、日本語の語彙・文法にかかわる誤用⁶⁾（完全な誤用のみでなく、不自然さを感じるものでより適切な表現が他にあるものも含む）を832例抽出した。

3 分析結果と考察

832例の誤用の内訳は、語句の選択に問題があるものが221例、話し言葉の使用にかかわるものが146例、助詞にかかわるものが134例、テンス・アスペクトにかかわるものが78例、複文にかかわるものが74例、文法形式にかかわるものが66例、活用の誤りが34例、語句の使用にかかわるものが33例、やりもらいにかかわるものが16例、不要な語句が含まれているものが10例、語句が不足しているものが9例、文中での呼応関係にかかわるものが7例、ヴォイスにかかわるものが3例、語順の誤りが1例だった。

以下3.1以降、実際に留学生の書いた例を提示しながら複数の留学生に見られた誤り、そしてその中でも特に多く見られた誤りを報告する。誤用数が10例以下だった不要な語句、語句の不足、文中での呼応関係、ヴォイス、語順については、複数の留学生に共通して見られる誤用の提示は困難なため、詳しい結果の報告は省略する。なお、各用例の最後に示した[→○○]は用例中の誤用箇所（下線部）を適切な表現に直したもの（一例を示したもので、他の表現もある）、そして、用例中の〈国・地域名〉は留学生の出身国・地域名を表す。

3.1 語句の選択

語句の選択の誤りとして複数見られたのが、まず日本語学習者にとって使い分けが難しい、「知る」と「わかる」（例1, 2）、自動詞と他動詞（例3）、「もの」と「こと」（例4, 5）、「この」と「その」（例6）の使い分けにかかわるものである。それから、「今」をはじめとした時の表現（例7~9）の使い分けにかかわるもの、「詳しく」という意味で「よく」を用いたもの（例10）、語形の似た語を用い

たもの（例11, 12）, 敬語など待遇表現にかかわるもの（例13~15）があった。これらの中で特に多かったのが、「知る」を用いるべきところに「わかる」を用いたものと、「詳しく」の意味で「よく」を用いたものである。

- 例1 富山に来た半年ぐらいになったが富山について全然分からないといってもいい過ぎてはない。
[→知らない]
- 例2 日本の民謡について、よくしります。[→わかりました]
- 例3 〈国・地域名〉も地方を発展するために、当地の文化を保存して、作り替えて、観光客を増して、地方の繁栄を促進します。[→発展させる, 増やして]
- 例4 以前、私は日本漫画とアニメの歴史についての授業を受けましたですけど、今回の先生の授業で新しいものを勉強しました。[→こと]
- 例5 〈国・地域名〉でも落語と似てることがある。[→もの]
- 例6 その授業の後で、富山のこと（名物、祭り、観光地）は最も分かります。[→この]
- 例7 今の授業を通して、日本の近代化についていろいろ勉強になりました。[→今日/今回]
- 例8 私は以前お宅文化に全然興味がありませんでしたけど、いまからアニメを見たいです。
[→今後は/これから]
- 例9 今回の授業であの時の色々なことを思い出しました。[→あの頃]
- 例10 漫画は浮世絵から生み出されましたか。その問題についてよく知りたいです。[→詳しく]
- 例11 富山はそんな有名なところではないけど、自分の特色が明るいと思います。
[→そんなに/それほど]
- 例12 その授業の後で、富山のこと（名物、祭り、観光地）は最も分かります。[→もっと/より]
- 例13 師匠の上手な表現技術で落語のおもしろさはちゃんと伝いました。[→すばらしい]
- 例14 興味深い話をしてくれて、ありがたいと思います。[→いただき/くださって]
- 例15 先生は地域の復興をするからと言いました。[→おっしゃいました]

3.2 話し言葉

コメントシートでの話し言葉の使用はレポートや論文を書くときほど大きな違和感がなく、日本語母語話者も意見や感想を書く際には状況に応じて話し言葉を適宜入れる場合もある。ただ、留学生のコメントシートに見られた話し言葉は、他の部分で書き言葉を使用しているのに一部の語句のみ話し言葉になっていて不自然さを感じるもののがかなり多いことから、話し言葉にも注意が必要だと考え、誤用として抽出した。複数の留学生が用いていた話し言葉は、以下に挙げた「すごい」（例16）, 「すごく」（例17）, 「とっても」（例18）, 「いっぱい」（例19）, 「たくさん」（例20）, 「全然」（例21）, 「みんな」（例22）, 「頑張る」（例22）, 「びっくりする」（例23）, 「…けど」（例24）, 「…かな（と思う/と疑われる）」（例25）, 「…じゃない」（例26）, 助詞の省略（例27）で、中でも「すごい」, 「すごく」, 「とっても」, 「たくさん」, 「みんな」, 「…けど」の使用が多かった。

- 例16 一人でコントのすべてをできるというのがすごい。[→すばらしい/（に）驚いた]
- 例17 戦後日本のマンガとアニメはすごく多様である。[→非常に]
- 例18 面白い落語を聞いてとっても良い経験になりました。[→とても/大変]
- 例19 「おわら」は百年前に非定型ですが、百年を経て、今は観光客がいっぱいいる祭りになりました。[→大勢]
- 例20 富山のさまざまな情報をたくさん得た。[→多く]
- 例21 おそばとうどんを食べる演出は違うと思いますのに、実は全然同じです。[→まったく]

- 例22 グループでみんなが頑張って、素晴らしい生け花ができました。[→皆, →努力して]
- 例23 そして、浮世絵の絵の作り方は地元の版画と同じのをびっくりしました。[→驚きました]
- 例24 〈国・地域名〉も豊かな文化を持っているけど、今時の人はなかなか深くの興味を持ってなくなっている。[→が]
- 例25 今日のすもうの絵では男性だけいる絵は非常に少ないと覚えているが、江戸時代に浮世絵は卑しいものだったかなと疑われた。[→のではないか]
- 例26 世界中に子供だけじゃなくて、大人にも人気がある。[→ではなくて]
- 例27 おわらを直接に見たことないので、ぜひ見に行きたいのです。[→見たことがない]

3.3 助詞

助詞にかかわる誤用として多かったのは、「が」と「を」(例28～39, 37), 「に」と「で」(例31～33), 「は」と「が」(例34～36)の使い分けにかかわるもの、それから、「は」の使い方にかかわるもの(例37, 38), 助詞の「の」が入っていないもの(例39)で、中でも特に多かったのが「…がわかる」を「…をわかる」とした誤用, 「…がおもしろい」を「…はおもしろい」とした誤用である。

- 例28 これらのことを基づいて、近世と近代の違いをもっとはっきり分かるようになりました。[→が]
- 例29 例えば slamdunk と国外靴のメーカーをコラポして、特別な靴をデザインしました。[→が]
- 例30 富山に来たばかりだからまだ富山のことがしらないだ。[→を]
- 例31 もちろん、アジアの日本の近くの〈国・地域名〉にも日本のマンガやアニメはとても人気があります。[→で]
- 例32 世界中に子供だけじゃなくて、大人にも人気がある。[→で]
- 例33 漫画やアニメなどによって、日本の文化は世界中で広く伝わってきます。[→に]
- 例34 今の日本の「伝統文化」は100年前のは違うところは多いです。[→が]
- 例35 浮世絵のジャンルから選ぶなら、私にとって風景画は一番面白いです。[→が]
- 例36 閏月の由来について物語りは面白い。[→が]
- 例37 以前は日本の近代史がすこし勉強しましたが、全面的ではありません。[→以前, →を]
- 例38 漫画は今のものだと思っただけで、実際に江戸時代から「絵巻物」というものももうありました。[→実際には]
- 例39 表情演技がとてもおもしろかった。[→表情の]

3.4 テンス・アスペクト

テンス・アスペクトにかかわる誤用として多かったのは、タ形を用いるべきところにル形を用いたもの(例40～44)と、「思う」、「思った」、「思っている」、「思っていた」の使い分けにかかわるもの(例45～47)である。このほか複数の留学生に見られた誤用として、「わかった」と「わかっている」の使い分けにかかわるもの(例48)と、テイル形を用いるべきところにル形を用いたもの(例49, 50)が挙げられる。

- 例40 今日は書道について勉強します。[→勉強しました]
- 例41 八尾とおわら風の盆のじょうほうもたくさん身につけます。[→身につけました]
- 例42 時間の設定や地界地図や西方文明に伝来したや各国の間の戦争などの方面から、もっと深く日本の近代史を知ります。[→知りました]
- 例43 初めて、日本の落語を聞いたり見たりできることはうれしいです。[→できた]

- 例44 むかし日本の文化を勉強したとき、日本の音楽について、あまり知りません。
[→知りませんでした]
- 例45 浮世絵は手書きだと思いました。[→思っていました]
- 例46 花をかざるのは簡単だと思いますが自分でやってみるとなかなか難しかった。
[→思っていました]
- 例47 もっと後半の内容を詳細にするほうがいいじゃないかと思っています。[→思います]
- 例48 このじゅぎょうに出て、おわらという伝統的な文化が分かっている。[→わかった]
- 例49 でも今〈国・地域名〉そんな教育が少ないですから、今伝承がだんだん消えます。
[→消えています]
- 例50 〈国・地域名〉も地方を発展するために、当地の文化を保存して、作り替えて、観光客を増して、地方の繁栄を促進します。[→促進しています]

3.5 複文

複文にかかわる誤用では、適切な従属節が選択できていないもの（例51～56）と、従属節中の述部の形が不適切なもの（例57～60）とがあり、前者では原因・理由の「…て（テ形接続）」が適切に使えていない例、後者では「…と思う」と「…とき」の従属節中の述部の形が不適切な例が多く見られた。

- 例51 今日は学べるとほんとうにうれしかった。[→学べて]
- 例52 先生の授業を受けたら、私達は多くの美景を見逃したことを知りました。[→受けて]
- 例53 在原氏の絵「世の中にたえてさくらのなかりせば人の心はのどけからまし」、その文はわかりにくいから全然理解できません。[→わかりにくくて]
- 例54 初めてやるからたのしかった。[→やって/やったが]
- 例55 はじめて、日本の音楽と民謡を聞いて、とても素晴らしいです。[→聞いたが]
- 例56 一目で性別を分けてちょっと難しいと思います。[→分ける（見分ける）のは]
- 例57 特別な絵があって、とてもすばらしいだと思います。[→すばらしい]
- 例58 前と住んでいた京都と比べて、富山のほうが静かなと思っている。[→静かだ]
- 例59 天気がいいの時、立山へ行って、富士山を見たいです。[→いい]
- 例60 自分でやりの時、さまざまな困難があります。[→やる]

3.6 文法形式

文法形式にかかわる誤用としては、講義を聞いて得た情報を示す際に伝聞を表す「という」が適切に用いられていないもの（例61～63）、必要がないのに「のだ文」を用いたもの（例64）、変化を表す「なる」および変化動詞にかかわるもの（例65～67）、「について」にかかわるもの（例68～70）が多かった。中でも特に多かったのは例64のように願望を表す「たい」+「のだ文」を用いた誤用である。

- 例61 その時期から服装、ヘアスタイル、調度品が伝統的なものから洋風になららしい。
[→という]
- 例62 昔の絵と現代のマンガなどの間に相似点があるのは面白かったです。[→というの]
- 例63 伝統は作られていて、作り直していてもあるの話は面白かったです。[→という]
- 例64 箏の音が大好きです。機会があれば、習いたいのです。[→です]
- 例65 今回の授業で、もっと深く日本の近代史を知るようになりました。[→知りました]
- 例66 立山に行きたいようになりました。[→行きたくなりました]
- 例67 日本の歴史をもっと詳しくわかるようです。[→わかりました]

例68 閏月の由来について物語りは面白い。[→についての/に関する]

例69 日本の美術にとってすこしだけ理解できた。[→について]

例70 マンガはもっと分かった (古いマンガと新しいマンガ) [→について]

3.7 活用

活用の誤りについては、動詞のテ形 (例71~73) が最も多く、このほか複数の留学生に見られたものとして、動詞の受身形 (例74, 75)、形容詞のタ形 (例76, 77) が挙げられる。

例71 〈国・地域名〉の歌と似ている点もあった。[→似て]

例72 いろいろの写真を見て, 日本のアニメについて, よく理解しました。[→見て]

例73 伝統文化はただの伝統文化だけでなく, 社会の人口, 経済, 政治など様々な方面とつなんで, それらを反映しています。[→つないで]

例74 伝統のものは長い時間を経て, 作り替えされました。[→作り替えられました]

例75 三味線は日本の伝統楽器として, 多くの民謡の中で使られます。[→使われます]

例76 時間が少なかったので, スピードは速いでした。[→速かったです]

例77 この授業は楽しいでした。[→楽しかったです]

3.8 語句の使用

語句の使用については複数の留学生に見られた誤用は、副詞的表現における助詞「に」の有無にかかわるもの (例78~80)、連体修飾、連用修飾の際の形の誤り (例81~84)、「する動詞」にかかわるもの (例85, 86) である。

例78 本当に色々に勉強しました。[→いろいろ]

例79 小学生以来に久しぶりの華道をして昔を思い出した。[→以来]

例80 ひさしぶり書道を書いて, 面白いと思います。[→久しぶりに]

例81 今時の人はなかなか深くの興味を持ってなくなっている。[→深い]

例82 いろいろの写真を見て, 日本のアニメについて, よく理解しました。[→いろいろな]

例83 900年前に作られた絵, その内容はとても不思議です。[→その]

例84 「君の名は。」みたいに特定な場所が出るマンガやアニメは地域経済活性化に大きい投に立っているそうだ。[→特定の, →大きく]

例85 地方は衰退なので, 新しい伝統の創造がたしかに必要だ。[→衰退している]

例86 日本の近代化に従って, 都市に人口集中しました。一方, 地方では人口停滞します。

[→人口が集中しました, →人口が停滞しています]

3.9 やりもらい

やりもらいにかかわる誤用は、「…ていただく」と「…くださる」の使い分けにかかわる1例 (例90) を除くとすべて講師 (先生) による恩恵的行為に対して授受表現を用いずに述べているもの (例87~89) で、特に例87のように「紹介する」という語をそのまま用いた誤用が多かった。

例87 近世と近代の違いについて, 様々なことを紹介しました。

[→紹介していただきました/紹介していただきました]

例88 難しい文章が出たが先生に簡単にまとめた。[→ (先生が…) まとめていただきました]

例89 先生はパワーポイントでやさしく英語の翻訳をつけました。[→つけていただきました]

例90 先生は苦勞をして、私たちにとても面白い落語を演じていただきました。

[→演じていただきました]

4 おわりに

本稿では、留学生の書いたコメントシートをもとにどのような語彙・文法上の誤用が見られるかを分析し、語句の選択、話し言葉の使用、助詞、テンス・アスペクト、複文、文法形式、活用、語句の使用、やりもらいにかかわる誤用が多いという結果を得ることができた。個別に見られる誤用もあるが、複数の留学生に共通して見られる誤用も多く、特に誤用が集中する語句や文法・表現形式もいくつか取り出すことができた。

コメントシートを書く際は、まず読みやすさと理解しやすさが求められ、加えて、読み手を不快にさせない、読み手である講師（先生）への感謝や敬意の気持ちを表すといった配慮も必要だろう。読みやすさ、理解しやすさの上で特に注意すべきなのは助詞、テンス・アスペクト、複文にかかわる誤用、一方、読み手を不快にさせない、感謝や敬意の気持ちを表す上でポイントとなるのは語句の選択、話し言葉の使用、やりもらいにかかわる誤用だと考えられる。今回の調査で留学生の誤用が多く見られた項目、語句表現を中心に、今後さらにデータ数を増やして詳細な分析を行う予定である。

注

- 1) たとえば北尾他（2005）、佐藤他（2012）、藤田（2006）などがあるが、いずれの教材もノートテイキングの項目はあるが、コメントシートについては取り上げられていない。
- 2) 由井他（2012）では「授業についてのコメントを書く」という課で内容や構成に気をつけて書くこと、および、感想と意見の違いを理解して区別して書くことができるようになることを目標としたタスクが用意されている。そしてコメントシートを書く際に必要な表現として、「意見を言う表現（…必要がある、…べきである、…のではないだろうか）」と「勉強して気づいたこと、考えたこと、今後の抱負を伝える表現（これから…ように思う、…で…なければならなかった、…ので…ように思った、…をさっそく…てみたいと思う、なぜ…と疑問に思った）」が紹介されている。また、深澤他（2017）で新たに開発中の教材でも「ノートを取る・コメントシートを書く」という課を設け、コメントシートの書き方を扱っている。
- 3) 回収したコメントシートは日本語の表記や語彙・文法などの誤りを添削して、翌週の授業で留学生に返却している。
- 4) コメントシートのサイズは、講義の内容をメモする部分と意見・感想を書く部分、それぞれ縦4.5cm×横7cmである。本稿で分析の対象としたのは、意見・感想を書く部分に書かれたコメントである。講義の内容をメモする部分に書かれた日本語については語彙・文法上の誤用は少なかった。講師による説明、板書、プレゼンスライド、配布資料で使われた日本語を参考にして書いているためだと思われる。
- 5) 留学生27名の在籍身分別の内訳は交流協定校からの短期留学生15名、学部1年生10名、日本語・日本文化研修留学生2名で、出身国・地域別の内訳は中国11名、韓国、ベトナム、マレーシア各4名、台湾2名、フィンランド、ロシア各1名である。
- 6) 語彙・文法以外の誤用として、たとえば楊（2014）は中級日本語学習者の作文に見られる誤用を分析する際に、文法的誤り（助詞、文構造の呼応関係、修飾、接続、活用、テンス、アスペクト、授受表現、語順など）、意味論的誤り（語句の選択、話し言葉、語句の不足など）、表記的誤り（綴り、段落最初の一文字空け、句読点）、論理的誤り（論理の飛躍や矛盾による理解不可能な場合）、語用論的誤り（指示対象が不明瞭の場合）に5分類している。本調査で用いたコメントシートに見られた表記的誤りは個人差が大きく、またコメントシートに書かれた文章は数行程度の短いものであるため、論理的誤りと語用論的誤りについてはほとんど見られなかったことから、表記的誤り、論理的誤り、語用論的誤りは分析対象から外した。

参考文献

- (1) 北尾謙治・実松克義・石川有香・早坂慶子・西納春雄・朝尾幸次郎・石川慎一郎・島谷浩・野澤和典・北尾 S. キャスリーン (2005) 『広げる知の世界—大学での学びのレッスン—』, ひつじ書房
- (2) 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 (2012) 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—第2版』, 慶応義塾大学出版会
- (3) 原沢伊都夫 (2012) 「日本語初中級学習者の作文指導：学習者の誤用分析をもとに」『静岡大学国際交流センター紀要』第6号, pp.79-92
- (4) 深澤のぞみ・札幌寛子・濱田美和・深川美帆 (2017) 「大学初年次留学生のためのアカデミックジャパニーズ総合教材の開発」『2017年度日本語教育学会春季大会予稿集』, pp.373-377
- (5) 藤田哲也 (2006) 『大学基礎講座—充実した大学生活を送るために— 改増版』, 北大路書房
- (6) 由井紀久子・大谷つかさ・荻田朋子・北川幸子 (2012) 『中級からの日本語プロフィシェンシー ライティング』, 凡人社
- (7) 楊帆 (2014) 「中級日本語学習者の作文における困難点—文構造の呼応関係について—」『秋田大学国際交流センター紀要』第3号, pp.15-28